

## テーマ「中学入試と内部推薦」

日時：11月30日（日）

場所：栄オアシス校

対象：中学受験生とその保護者

### ◆講演1／責任者 森幸子

今日は南山小の男子の入試2日目。幼児クラスからずっと、思考や発言の訓練を行ってきましたが、ポイントのひとつはコミュニケーション能力です。

昨日の女子の入試では、10人の生徒の前に先生が1人ずつ座り、「お互いに関心を持とう」という出題がありました。「前にいる先生の名前を尋ね、自分の名前を教えてください」から質疑が続き、「なぜですか？どうしてそう思いますか？」と深く追求されました。そして最後に「先生に3つ質問をしなさい」と言われました。ある子の場合こんな感じです。「好きな果物は何ですか？」「リンゴです」「リンゴの皮をむいたことがありますか？」

今、コミュニケーションや共感する力が非常に乏しくなっているため、授業を行っていても先生と生徒たちが離れている、かい離しています。

### 厳しくなっている内部推薦

#### そこへチャレンジする外部受験

主に南山の例をお話します。椋山も状況は同様です。

内部推薦について非常にアバウトなので、もう少しはっきり提示をしてくださいと申し入れています。生徒に配られた紙には、定期テストで80点以下が1つでもある場合は不可とされています。また、今までは4教科で△がひとつでもある場合でしたが、今後は音楽も体育も含め、全教科でひとつでも△がついたら不可とされています。

毎日のノートの取り方もチェックされています。それから、頑張りタイムがきちんと直して出せるか。南山小には頑張りタイムという、表現や算数、また、理科など、色んな問題を1日3回、5分間で解答する時間がありますが、6年生を見ると、もう灘中学辺りのレベルです。たとえば円の面積、半径×半径×3.14を2通りで証明しなさいといった問題を5分でやります。とても厳しいです。また、南山小から与えられているコアという問題集は新演習よりやや簡単なものですが、「なぜそうなりますか？」と問われます。

小学校からは楽に中・高に進めるというのは大間違いです。たくさんの子が進めなくなっています。南山小も椋山小も、6年生9月の実力テストで大きく左右されます。たとえば

熱田区で S ランクは、算数、国語とも 1 名いるかいないかですが、南山小はほとんどが S ランク。外部受験だけが大変なのではなく、内部でもものすごい競争があります。

小学校の中でも切磋琢磨し、そこに外からの生徒もチャレンジしていくわけです。厳しい言い方をすれば、公立小の問題、定期テストなどは簡単で、それぐらいは勉強しなくても点数が取れるところまで来られないといけません

南山小の現在 6 年生で、東海中学を受験する男の子のスケジュールを言ってみます。外部受験の 6 年生は自分と照らし合わせてみてください。

朝起きて計算日記、漢字日記、理科の新演習などのチェックテスト。これを 1 時間弱やって、土日は 9 時に塾へ来ます。そして 12 時間お勉強。1 対 1 を結構入れています。平日は、学校から飛んで帰ってきて、自学帳を 30 分ぐらいでやらないといけません。スピードが必要です。5 時に塾へ来て、東海中学の問題をやります。家に帰るのは 10 時過ぎ。自学帳が終わっていない場合はそれを済ませ、塾の復習。11 時か 11 時半に就寝。そしてまた朝です。

今日は頑張りタイムの問題を、最後の 15 分でやってみてください。回答が○だったら、ジェイサチ鉛筆を 2 本ずつプレゼントします。

ジェイサチではシャープペンがダメです。鉛筆を使ってください。筆圧の弱い子は 2B を使ってください。薄い字は○がもらえません。内部推薦の子もそう。必ず先生に読んでいただける濃さの、わかりやすい字を書いてくださいね。

## ◆講演 2 / 講師 田中 浩美

### 入試や願書のスケジュール確認

#### 最後の模試の正答率チェックを

中学受験のスタートは 1 月 21 日、愛知中学、金城女子学院中学からです。あと約 60 日。県外受験の方、最近は寮制の学校で教育方針において注目を集めている学校も多く、そちらを受けられる方もいらっしゃいます。岐阜、三重、静岡は 1 月 8、9 に入試が始まり、願書受付期間は 12 月初めからなのでご注意を。調査書提出を義務付けている学校もまだあり、懇談会のない学校では準備をお願いし、年内に受け取って間に合うよう提出してください。

先日受けた四谷大塚の結果が来週、郵送されてきます。そちらで判定が出てきます。ジェイサチから受けていただく模試の最後です。東海、滝、南女辺りは第一志望の方向けの模試が他で開催されます。試験慣れという意味で余裕があれば受けるのもよいのでは。ただし最終的な目安は過去問の点数です。

当塾はその子の一番理解できるペースがベースメントなので個人差はありますが、夏頃

から膨大な演習を重ね、ようやく落ち着いてきた子が増えてきました。これからは 4 科の総合力。と言っても 4 科満点の必要はありません。滝、南女辺りは 80% ぐらいになる場合もあり、そうすると 1 個のミス、計算間違い、読み間違いが致命傷になり得るため、セルフチェックを含めた大詰めトレーニング期間に入っています。とはいえ満点が必須ではなく、まず目指すのは最低レベルの 6 割です。

高校、大学受験でも基本の考え方になる、正答率という言葉覚えてください。正答率 50% は、受験者全員の半分が正解した問題です。模試結果にデータが載っていますので、まずは正答率 50% 以上の問題を見てください。間違っていたら即復習。全体的な復習は模試の後すぐやりましたが、改めて正答率 50% 以上で間違っていたものは絶対に解けるようになるまで復習してください。

今、過去問の直しノートを作っています。解けないといけない問題をやり直すもので、試験会場にも持っていきます。しっかり取り組んだ痕跡として、精神的にも落ち着くアイテムになると思います。自分が理解しにくい分野だけに、3 回りは復習していただけたらと思います。滑り止め、本命、チャレンジと、レベル別に受験校を揃えられると思いますが、滑り止め校についてもやらなければいけないことは山ほどあります。ここは大丈夫という学校も傾向をつかむことは大切で、挑戦状のような問題も出てきます。番狂わせがあると精神的にも辛い状況になりますので、演習予定に入れてすべてやってください。

## 試験を落ち着いて受けられる秘訣

### 深い呼吸・日頃からの集中・

### イメージトレーニング・健康管理

中学入試は 1 回で全てが決まる、ある意味過酷な試験。模試とは違う臨場感を感じ、緊張する子もいます。その緊張をどう緩めるかです。

ひとつは呼吸。集中力に欠ける、ミスをする子は、呼吸が乱れやすい、浅いことを教室でも感じます。ハアハアという呼吸をしている子が多い印象です。深呼吸をするようなつもりで、大きく吸ってゆっくり吐くということを心掛けていただきたいと思います。

また、過去問を少し離れた所で集中して解く練習をしていますが、一瞬目を閉じ開けたら、ここは試験場だと、意識を切り替える気持ちで取り組んでください。幸子先生もよく「試験は日常だよ」と言われます。急いで書いたごちゃごちゃの字に注意を受け、「試験ではちゃんと書くから大丈夫」という子も多いですが、それはできません。日常やっていることがそのまま出ます。日頃から、ここは試験場、この 1 回で合格が決まると、自分にプレッシャーをかけてください。そうすることが本番の落ち着きにつながります。

もうひとつはイメージトレーニング。前日、明日は何時に起きて…とイメージしてください。今はまだ夜型が多いかと思いますが、午前中の試験で頭がフル回転するように、最低 1 ヶ月前ぐらいからは朝方にさせていただきたいと思います。3 時間前に起きないと脳は働き始めません。逆算して 6 時起床を目安にさせていただくといいかと思います。起きて顔を

洗い、ご飯を食べ、受験票も筆記用具も持ったと確認して家を出て、試験会場に向かい、第 1 限の「始めます」という声が聞こえる所までイメージしてください。声を出すとよりリアルにイメージできます。そうすると、できることはやりきったという気持ちになれば、落ち着いて試験を受けられます。

あとは健康対策。何があっても罹患しない高い免疫力を日頃から身に付けられるように心がけてください。風邪などで熱が出ても、本人次第で受けられることもあり、大抵の学校では保健室受験も可能です。熱が出て戸惑い、思い詰めると治るものも治らなくなってしまいます。これだけのことをやったのだから 8 割の力で受けても、保健室で受けても大丈夫と言いつけてください。

### マイナスの言葉は飲み込んで

#### プラスの言葉で応援を

最後は、親御さんに心構えとして、頭の片隅に置いておいていただきたいことです。これからは、子どものやる気をそぐような言葉は厳禁。ぐっと我慢してください。私自身も第二の母親のつもりでおり、言っではいけない一言を言いそうになる瞬間もあります。それを飲み込んで 180 度反対の応援の言葉をかけると、結果的に注意をしていたよりもいい演習結果を出してくれることの方が多いのです。特にこれからはミスを見ると色々言いたくなりますが、読み間違いや計算ミスをしていた子も、1 ヶ月前ぐらいには、数週間前の子もいますが、逆にこちらのミスを指摘するぐらい感覚が研ぎ澄まされてくるのがよくあります。努力してきた子にはそういったことも起きるので、マイナスの言葉は飲み込み、プラスの言葉でコーティングしていただきたいと思います。

さらに、入試後の話になりますが、2 週間は思い切りのんびりさせてあげてください。そうすると子どもたちの方から「先生、暇だけど何やったらいい？」と聞いてきます。勉強は苦手だ、嫌いだと言っていた子も同じです。

中学入試を本気で学習した生徒たちは、英語と数学は入学前に中 1 の内容を終わる力が身についています。中学入試で習っていることは、中 3 生と内容的にはほぼ同列で、公立中と比べるとむしろハイレベルです。だから中 1 の 1 学期の内容程度はあっという間に終わります。中学用の内容が入っても膨大な情報を処理してきた子たちなので、すぐ頭に入ります。それだけはやっておかれた方がいいと思います。

京都のある日本語学校には、大学入試前になると有名理系国立大の先生方が挨拶に行かれるそうです。そこは中国の生徒が多く、熾烈な競争社会である中国のトップレベル大学に比べると日本の旧帝大辺りはまだ入りやすいため、トップ頭脳の生徒たちが日本語学校を経て、東大や京大などの国公立大に、800 人中約 600 人も入っているそうです。

今の小学生はその同じ舞台に立つと考えると、大変です。ただ、究極まで頑張った体験は国境を越えて共有できるはず。世界のトップ層と理解し合える可能性が膨らみます。世界の子どもたちに負けないようにする、そんな気持ちで指導しておりますので、まだ大変

な日々は続きますが、よろしく願いいたします。